



事例から学ぶ公正な研究活動

～ 気づき、学びのためのケースブック～

普及版



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

事例から学ぶ公正な研究活動 ～気づき、学びのためのケースブック～

普及版

国立研究開発法人日本医療研究開発機構

はじめに

研究活動とは、多くの先人の努力によって築かれた科学の歴史に、自分の研究で得られた結果を加えることにより、新たな知の体系を構築していく行為であります。言い換えれば、公正な研究活動が担保されない限り、科学の歴史がゆがめられ、これまで努力して築き上げた科学全体の信頼を損なうばかりでなく、科学者に対する社会的信頼を著しく傷つけることとなります。

そのためには、研究者の行動規範は、法令を遵守するだけでなく、高い倫理観を持って公正な研究を行うことが研究者の責務であることを謳っており、研究に関連するすべての人達は、公正な研究がいかなるものであるかを十分に理解する必要があります。

本ケースブックは、ディスカッション形式等「研究者参加型」の教育プログラムで活用できる効果的な教育教材として、これまで日本のみならず世界各国で行われた研究不正や生命倫理違反、利益相反違反などの具体的事象を紹介するとともに、そのポイントや問題点を提示しました。これら具体的事例に基づいて、様々な類型の事例と、個々の事例へどのように対応することが適切なのかを考え、討議することにより、研究者のみならず、研究機関の研究倫理教育高度化のため、研究環境を整備する者、研究不正であるかを判断する者にとっても参考となるべく作成されました。

昔のことわざで、「賢者は他人の過ちから学び、愚者は自分の過ちから学ぶ」がありますが、研究不正と認定された行為を行った者は、学んだ時にはすでに手遅れです。是非とも、研究に関わるすべての人たちは、このケースブックで他人の過ちから学ぶ賢者になっていただき、公正な研究を行うことを期待します。

お茶の水女子大学副学長 森田育男

目 次

I 研究不正と認定された事例

1. 研究不正行為とは何か	2
1.1 捏造、改ざんの例	4
1.2 盗用の例	11
2. データの収集・管理・処理	14
2.1 データとその重要性	14
2.2 実験ノートの管理	18
3. オーサiership	24
3.1 オーサiershipと責任	24
3.2 誰を著者とすべきか	26
4. 研究室の運営	28
4.1 研究室運営で配慮すべきこと	28
4.2 研究指導	30
5. 研究不正の防止と告発	33

II 好ましくない研究事例

1. 利益相反とは何か、どのように対処すればよいのか	38
2. 臨床研究にかかる倫理的な問題 被験者保護や インフォームド・コンセント等	52
3. 研究データの信頼性、研究の再現性等に関する問題	68

4. 画像改ざんに関する問題	80
4.1 本稿で扱う画像処理の対象	80
4.2 学術雑誌において明文化されている画像処理規範	80
4.3 画像不正と疑われないための画像処理	83
4.4 施してはいけない画像処理手法	90
4.5 画像不正を検出できるソフトウェアツール	95

